



untitled

「untitled」肩書きや、形にとらわれず、自由に広がりのある活動を目指して…。

総会

神奈川県社会福祉青年経営者会通信

6月10日 神奈川県社会福祉会館において 平成20年度第1回青年経営者会・総会が開催され、平成19年度事業報告(案)、平成19年度決算報告(案)が審議されました。

会長挨拶(泉心会 小泉隆一郎)

本日、10:00からベイシエラトンで、経営者部会の社会福祉法人のあり方検討委員会および社会福祉施設従事者等人材確保対策検討委員会が開催された。これには青年経営者会からも正副会長が参加している。人材確保委員会では、介護に携わる人材の離職率が10%である民間と比べるとそれほどの大差はない。これには、民間企業の好景気に加え介護事業の拡大により人材が追いつかないと考えられる。人材不足については、保育・障害・高齢の3業種で検討して活動している。引き続き今年につながるよう活動していきたい。とのあいさつがあった。



総会議事(11:10~11:40)

第1号議案 平成19年度事業報告(案)について

議長は本議案の説明を副会長 高橋 輝彦(照陽会)に求めた。高橋副会長は「平成19年度事業報告(案)」に基づいて、総会・研修会・委員会活動・経営者部会との連携・会員総会及び役員会の開催等の説明を行った。

議長は、本議案の質疑を議場に諮ったが特に出なかったため、議案の採決を挙手にて行った。出席会員、賛成多数で本議案は承認された。

第2号議案 平成19年度収支決算書(案)について

議長は本議案の説明を総務広報委員会会計担当 武藤 祐生(愛の森)に求めた。武藤担当は、「平成19年度収支決算書(案)」に基づいて、予算額に対して決算額の差引増減額の内容の説明、19年度の繰越金額の説明、単年度の収支状況の説明を行った。

続いて、監事監査報告を監事川瀬和一(共生会)が行い、監査の結果、適切であったとの報告を行った。

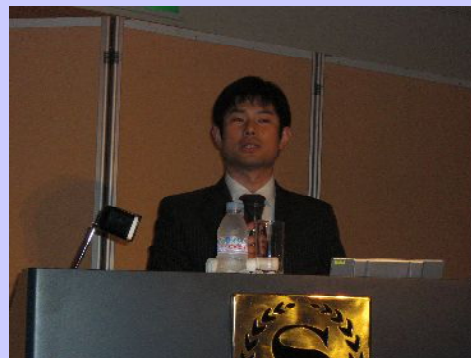
議長は、本議案の質疑を議場に諮ったが特に出なかったため、議案の採決を挙手にて行った。出席会員、賛成多数で本議案は承認された。



平成20年度神奈川県社会福祉協議会

経営者部会・青年経営者会合同研修会
「職員満足度向上・離職率の低下を図る」
～これからの社会福祉法人経営を考える～

日時 平成20年6月10日(火)
場所 横浜ベイシェラトン&タワーズ4階
講師 株式会社船井総合研究所
チーフコンサルタント 糠谷 和弘



総会后、横浜ベイシェラトン&タワーズ4階に場所を移し、株式会社船井総合研究所チーフコンサルタント 糠谷 和弘氏を講師に向かえ、「職員満足度向上・離職率の低下を図る」をテーマに掲げ、合同で研修会を開催しました。

職員の離職理由は、順に「①経営者の理念・方針が理解できない」、「②人間関係」、「③労働環境」にあるとしたうえで、1%の人に満足してもらおう経営でも130万人の満足に結びつくことから、社会福祉法人の場合は、園や施設が誰のために存在するのかの絞込みと併せ、地域への絞込みによる重要性を述べられまた、競争よりも共生の大切さ、短所の改善よりも長所をのぼすことの有用性や何かで1番であることが職員や利用者のプライドにつながることから、理事長や園長の人生観や福祉観などに基づく、独自の貢献点をつくる挑戦には終わりが無いことを述べられた。

人が育つ環境としては、「ムダな修行をさせない」「プロとして扱う」「プロとしての行動を求める」「新幹線型組織(車両全てに動力)」「全員経営者発想」「区別して育てる」「失敗できる組織に」の7点を指摘され、「福祉に関する法制度(略)が変わるたびに、福祉の業界には「答えがない」ことを痛感」しながらも、「変化についていけない場合、どんなことが起きるのか?」との問いに対して、30年の経過で97%の法人が市場から退場し、そのほとんどが、経営不振の理由を外的要因に求め、1度成功した方法に固執してしまうことを指摘されました。

また、「進化論」のダーウィンが発したとされる言葉を引用し「変化できるものだけが勝ち残る」と併せて、職員はもとより、利用者、家族、地域との「共感経営」の大切さを説かれた。



平成19年度第2回総会

日時 平成20年 2月29日(金) 14:00より
会場 神奈川県社会福祉会館 4階 研修室

平成19年2月29日(金)神奈川県社会福祉会館にて、平成19年度第2回神奈川県社会福祉青年経営者会総会が開催され、「平成20年度事業計画」、「平成20年度予算」が審議、承認を得た。平成20年度は自由・規律・持続可能性の3本を柱に、これまでの研修・研究委員会を研修委員会と老人・児童・障害の3部門の研究委員会に分け会員拡大と組織強化を図る事が盛り込まれている。また、新入会員2名(飯田正孝氏・高木麻里氏)の紹介もなされた。

平成20年度神奈川県社会福祉青年経営者会事業計画(抜粋)

国は経済財政改革の基本方針2007の中で～「美しい国」づくりに向けて～「美しい国」の経済は自由と規律と持続可能性という3つの要素を兼ね備えたものである。と語っています。社会福祉法人も日本経済の中で経営を行っていく上で3つの要素を捉え舵取りをすべきと考えます。『自由な経営』とは、措置費から報酬等へ、委託からサービスへ、法人理念の実現に向け、人・物・金を自由に用いて地域に即したサービスを創造する経営が求められています。自由な経営を保つためには『規律ある経営』が不可欠です。ルールを確立し、ガバナンスが十分に機能する経営が必要不可欠です。『持続ある経営』は、行政に頼ることなく再生産性があり次代に自信をもってつなげるにより国民の安心・信頼を獲得する経営が必要と考えます。

神奈川県社会福祉青年経営者会は、次代を担う経営者を育成する目的のもと、若者が集い、未来の福祉を論じ、共に切磋琢磨する場と考えます。

我々は、日本の社会保障を担う若き経営者として自覚し、ご利用者様への自立の精神を大切にしつつ、分かりやすく親切で信頼でき、かつニーズに応えた安全・安心で質の高いサービスを安定的に提供する経営をおこなうため行動しなければなりません。

本年は、前年度の「新たな社会福祉の創造」を引き続き行動指針として、自由と規律と持続可能性という3つのキーワードをもとに事業を推進します。

神奈川県社会福祉青年経営者会集中勉強会

平成19年10月30日(火)～10月31日(水)
テーマ「資産管理」

平成19年10月30日(火)～31日(水)にかけて湯河原の翠明館にて「資産管理」をテーマに掲げ、神奈川県社会福祉青年経営者会集中勉強会を開催しました。出席者は、非会員を含め21名であった。

初日は、資産管理についていちよし証券様を講師に招き、なぜ資産運用が必要かという基本的なことに始まり、貯蓄、債



権、株式および保険等そしてそれに伴うリスクを踏まえて運用の実際を学んだ。

2日目は、あいおい損害保険代理店リプロ様を講師にお招きし、社会福祉法人の車両や施設内での事故など経営をしていく上で考えられるリスクに対応した保険商品を幅広い講演であった。

社会福祉法人を取り巻く環境が刻々と変化する中で、幅広くさまざまなこと学んでいかなければならないと感じた2日間という短時間ではあったが、有用な研修であった。



平成19年度 基調講演会

日 時 平成20年2月29日(金) 午後3時00分 ~ 4時30分

環境問題を考える
『地球温暖化と都市気候 今、わたしたちにできること』
講師 真壁 京子 氏(お天気キャスター)



講師の真壁さんは、ご出身が神奈川県平塚市と縁あって今回講演をすることとなった。TBSテレビを中心に気象予報士の仕事をしていることもあり、今回環境問題についてお話させていただく。

世界の年間平均気温は1980~90年にかけて上昇傾向にある。特に過去1300年でもっとも高温になってきている。このまま100年後には世界の平均気温は6度以上の上昇が予測されている。分かり易く例えると、氷河期は今の気温の-5度で人間が住めなかった。逆に6度上がれば、地球上で人間は暮らせないということになる。

このままの状況が続けば、北極や南極の氷が融け海面水位が上昇し大都市は水没してしまう。そのほかにも、疫病・多くの生物種の絶滅・森林消失・砂漠化・飢餓 など多くの危機的状況が予想される。

日本においては1990年以降、気温35度を超える猛暑日が急激に増えている。熱中症も以前は屋外にいる方がかかっていたが、近年では屋内にいても熱中症にかかるケースも増えてきた。特に高齢者と子供は喉が渇くという感覚が疎いので周囲のケアが大切である。

最近の夏の特徴として、夏の夕立の変化が挙げられる。以前は夕方に降るから夕立であったが、今は時間を問わずに集中的な豪雨が降るようになってきた。近年においては100mm/hを超える雨が降ることもしばしばある。

街の雨水処理施設や水路、下水道、河川の堤防などは通常50mm/hを想定し設計されている。水害対策についても設備面で対応が急がれている。

真壁氏が師と仰ぐ、気象予報士の森田正光氏は気象予報士の役割とは「災害から人命を守るために、防災情報を発信すること」と話してられるとのこと。



↑ 研修会の様子

新入会員です

会員状況(8月1日現在)

会員数 94名 / 法人数 77法人

一燈会	飯田 正孝	福寿会	福原 高洋
長岡児童福祉園会	高木 麻里	松が丘保育園	渡辺 高幸

横浜育愛会	初山 英人
中心会	入山 未央
中心会	鷲巣 晃弘
中心会	荻窪 かほり
中心会	手塚 賢二

編集後記 今年も暑い夏がやってきました。これからも、ホームページ・広報誌と情報を発信していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。